当協会の前会長で、県教委社会教育課長等を歴任された高橋寛氏より、これまでの本県社会教育のあゆみについて振り返っていただきます。今号は第５話です。

岩手の生涯学習物語（実践期編）

第五話　「生涯教育推進事業の成果」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　高　橋　　寛

昭和 57 年度から始まった「生涯教育推進事業」は岩手の社会教育に大きな成果をもたらしの歴史的な転換点となりしました。今回はその主な成果のお話です。

昭和 57 年度から三年間にわたり推進された「生涯教育推進事業」の主な成果は次のとおりです。

実態を知る

成果の第一は県民の生涯学習の実態を知ったことです。県教委は内閣府の調査を活用し昭和 57 年度「生涯教育基本調査」行いました。この結果、8 割以上の県民が何らかの学習を望みながら、半数近くの実現に留まっていることや県民が希望する学習内容などが明らかになりました。集計は地域別年齢別にクロス集計もされており、しかも国との比較も明らかになり、その後の生涯学習推進の基礎データとなったのです。

斬新な提言

成果の第二は、「生涯教育推進会議」の提言です。この会議は県内関係機関団体代表者及び有識者で構成され、今後の生涯学習推進策を「青少年期」「成人期」「高齢期」に分けて提言致しました。

その内容は斬新なものが多く、その後の本県の生涯学習推進事業の開発に大きく寄与するところとなりました。例えば「おやじ通信」や「ふるさと発見銀河鉄道」など斬新で魅力的事業で、いずれも国の注目を浴びる事業となったのです。

我が国初めての生涯教育情報分類表

第三の成果は生涯学習データバンクの整備から生まれた「生涯教育情報分類表」です。

「生涯教育推進事業」の一環として生涯教育データを「施設編」「団体編」「学習機会編」と取りまとめてきました。その結果、今後データを収集整理するためにはどうしても情報の分類が必要となったのです。

しかし、その様な分類表はありません。そこで県内の有識者の協力を頂いて作成したのが「生涯教育情報分類表」です。これはわが国初めてのもの、のちに文部省は私達が創った 10 分類を 9 分類とし生涯学習分類表として発表したのです。

広域事業の開始

成果の第四は、岩手で初めての広域事業の開催です。即ち岩手県民全員を対象とした事業の始まりです。これまでの事業は市町村単位に開催されるのが殆どで、市町村域を超えて講座が開催されることはありませんでした。

そんな状況を打破したのが生涯教育推進事業の「広域事業」だったのです。県内の大学短大、研究機関施設の協力を得て県民講座を開設したのです。

中でも、岩手大学の協力を得て大学構内で開催された「ウイメンズライフロングカレッジ」は大好評でした。女性問題を歴史的にかつ世界規模で考える内容で、講師は岩手大学の先生方を中心に県内の有識者やマスコミ関係者、さらに外国人女性も加わるなど、魅力に溢れるもので、参加者も北は二戸から南は一関まで、久慈・宮古・釜石・大船渡など沿岸各地からも参加があり、定員を遥かに超える盛況でした。

このような広域事業はその後の各市町村の事業推進に大きな影響を与えるとともに、県においては「生涯学習フェスティバル」開催へと結びついてゆくのです。そのお話は次の号で。（続く）